

お知らせ

†「主よ、どうかお助けください」

- ☆ 8 月 16 日（日）年間第 20 主日
- ☆ 8 月 23 日（日）年間第 21 主日
- ☆ 8 月 30 日（日）年間第 22 主日 8 月誕生日の祝福
- ☆ 9 月 6 日（日）年間第 23 主日 被造物を大切にする世界祈願日 ミサ後、教会委員会を行います。
- ☆ 9 月 13 日（日）年間第 24 主日 敬老の日祝福 マリアカフェを開きます。

- ☆ 8 月の聖書勉強会といつくしみのチャプレットはお休みとします。
- ☆ バザーのガレージセールのための品の持ち寄りをよろしくお願いいたします。
- ☆ 誕生会について：今月に誕生日を祝う人は第 4 日曜日までに用紙に名前を書いて下さい。
- ☆ 門の開閉について、平日は防犯上、教会に出入りのたびに門を閉めていただくよう協力をお願いいたします。

朗読当番：



カトリック大楠教会ホームページ：<https://www.ogusu-catholic-church.com/>

8 月の祈りの意向

教皇の意向：都会での福音宣教

匿名性と孤独で特徴づけられる大都会で、福音を宣べ伝える新しい道を見出し、共同体を築くための創造的な方法を探し出すことができますように。

日本の教会の意向：世界の平和

世界の平和のために祈ります。戦争・紛争当事国の指導者が、対話による和解を促進し、平和を実現するために力を尽くすことができますように。

共同祈願：

1. 信じる者を癒してくださる主の計らいに信頼してここに集う私たち一人一人の心の願いが主に聞き入れられ、すべての危険から守られ、祝福を受けることができますように

年間第二十主日

イザヤ 56・1、6-7 / ローマ 11・13-15、29-32 / マタイ 15・21-28

今日の福音は、イエス様とカナンの女性についての、よく知られた物語です。しかし同時に、私たちを少し戸惑わせる箇所でもあります。

カナンの女性は、娘を癒やしていただくためにイエス様のもとに来て、「主よ、どうかお助けください」と願います。しかし最初、イエス様は何もお答えになりませんでした。

想像してみてください。もし私たちが誰かに助けを求めたとき、その人が何も答えず、黙ったままだったら、私たちはどのように感じるでしょうか。

イエス様は何もお答えになりませんでした、彼女はあきらめません。

そして、女性を追い払うようにと弟子たちから願われたイエス様が、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」と言われても、彼女は願い続けます。さらに、「子供たち

のパンを取って、小犬にやってはいけない」と言われたときも、彼女は立ち去ろうとはせず「主よ、ごもっともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」と答えます。

この信仰を見て、イエス様は言われます。

「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。」

では、なぜこの福音箇所は、私たちを少し戸惑わせるのでしょうか。

イエス様は罪のない神の御子です。それなのに、この場面だけをそのまま読むと、イエス様が冷たく、この女性を拒んでいるように感じられます。しかし、ここにはイスラエルと異邦人との関係という、もっと深いテーマがあります。

イスラエルは神によって選ばれた民でした。神様はイスラエルに、律法、契約、神殿、預言者という大きな恵みを与えられました。しかし、イスラエルが選ばれたのはイスラエルだけのためではありません。すべての国々に神の恵みを伝えるためでした。

ここで、「壁と橋」という二つの言葉を考えてみたいと思います。

壁は何をするもののでしょうか？

壁は、何かを区別します。壁は、何かを守ります。何が内側にあり、何が外側にあるのかを明らかにします。そして、その壁によって、その共同体が何者であるのかが守られます。

イスラエルにとって律法や神殿、信仰の伝統は、一つの「壁」のようなものでした。それによってイスラエルは、自分たちが神の民であることを忘れず、その信仰を守りました。

しかし、壁だけでは十分ではありません。どこかに橋が必要となります。壁が何かを守るのに対して、橋は外側にある何かと内側にある何かをつなぐ役割を果たします。

今日のカナンの女性は、このような壁の外側に立っていたのです。しかし彼女の信仰が、その壁を越える橋となります。そして、イエス様の憐れみも橋となりました。

こうしてイスラエルに与えられていた神の恵みが異邦人へ、そして全世界へと広がっていくのです。

ここで、私たち自身について考えてみましょう。

私たちにも「壁」が必要です。信仰、祈り、聖書、教会の伝統、そして自分がキリスト者であるという自覚です。これらは、私たちの信仰を守る大切なものです。しかし、壁だけではいけません。橋も必要です。

もし私たちが教会の内側に閉じこもってしまったら、外の世界にキリストを伝えることができません。反対に世界に受け入れられようとして、自分たちの信仰や、キリスト者としての自分自身を失ってしまったら、私たちは何を人々に伝えるのでしょうか。

だからこそ、教会には壁も必要ですが、その壁には扉が必要です。そして、その扉から外へ出て、世界に橋を架けていくのです。

私自身も、カトリックの家庭に生まれ、両親から信仰を教えてもらい、カトリック学校で学び、毎週ミサに参加してきました。その信仰の環境という「壁」があったからこそ、私は自分が何者であるかを知ることができました。

そして今度は、その信仰を他の人々と分かち合うために、橋を架ける使命があります。ですから、今日、私たちは自分自身に問いかけてみましょう。

「私は、壁だけを築いているのでしょうか。それとも、橋を架けているのでしょうか。」

私たちが自分の信仰を大切にしながら、その信仰によって人々とつながる者となることができますように。そして、私たちを通して、キリストの愛と恵みが、壁の向こう側にいる人々にも届きますように。アーメン。